た。このサービスは、企業のリモートワーク環境を円滑にするためのツールであり、シンプルな操作性と安定した通信品質を兼ね備えている。

HD画質のビデオ会議、音声通話、画面共有機能を提供し、クラウドベースで動作することで、ソフトウェアのインストールを不要とした。最大1000人の大規模会議にも対応しており、2020年2月からは導入企業の費用負担を軽減するキャンペーンを実施するなど、パンデミック初期の需要に応えた。

**■学校の臨時休校を支えるソリューション・制度の提供**

NTT東日本は、学校向けにリモート学習を支援する「オンライン授業パッケージ」を提供した。このソリューションは、高速インターネット回線の提供とオンライン学習環境の構築を組み合わせたものである。

安定した通信環境を提供する「フレッツ光」を活用し、オンライン授業のスムーズな実施を可能とした。動画配信や資料共有に対応する専用ツールを提供するとともに、導入サポートや技術支援も含めることで、教育現場のICT化を全面的に支援した。

利用料金は導入規模に応じて変動したが、学校向けの特別割引プランを用意した。サービスは2020年4月から開始され、コロナ禍の臨時休校中の教育現場に迅速に導入された。

同様にNTT西日本グループでは、NTTスマートコネクトが動画配信ソリューション「スマートストリーム」を教育現場向けに展開した。同サービスは、学校や自治体に対し、オンライン授業や動画教材を簡単に作成・配信できる環境を提供した。

動画のアップロード、編集、配信を簡単に行えるインターフェースを備え、視聴履歴やデータ解析機能の搭載により、教育効果の測定を可能とした。専門的な技術や知識が不要で、誰でも簡単に利用できた。

価格体系は利用時間やストレージ容量に応じたプラン制で、2020年春から学校向けに提供された。

一方、NTTコミュニケーションズは、学習プラットフォーム「まなびポケット」を通じて、臨時休校中の児童・生徒に学習機会を提供した。このプラットフォームは、クラウドベースで教材や学習コンテンツを共有できる環境を提供するものである(**図表4-3-1**)。

デジタル教材や動画コンテンツを提供し、教員と児童生徒が双方向でコミュニケーション可能な機能を搭載している。通常時は月額制だが、2020年の特別期間中はサービス利用料を一部無料化し、多くの学校で利用が促進された。これにより、教育機会の継続性が確保された。

**■医療機関を支えるサービスの提供**

NTTドコモは、医療機関向けに「オンライン診療サービス」を提供し、感染症拡大時における患者の受診機会を確保した。患者が自宅や指定された安全な場所から医師の診察を受けられる環境を整備し、医療機関への物理的な来院を抑制することで、医療従事者と患者双方の感染リスクの低減を図った。

患者がスマートフォンやパソコンを用いたビデオ通話により、医師の診療を受けられるプラットフォームを構築した。電子処方箋の発行にも対応し、診療後には処方データの薬局への送信も可能とした。また、医療機関に対しては、システム設置から運用までの支援体制を整えた。医師やスタッフ向けに操作説明を実施することで、スムーズな導入を支援するとともに、医療データを高度なセキュリティ基準のもとで保護し、患者情報や診療記録の安全な管理を実現した。

価格は医療機関の規模や利用頻度に応じて変動するプラン制とした。2020年4月から提供を開始し、コロナ禍の全国の医療機関で導入が進んだ。

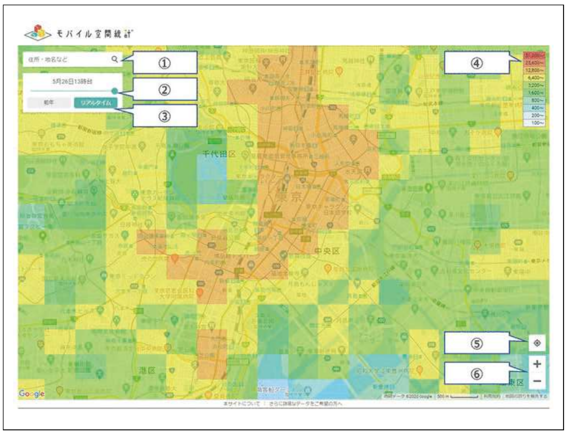
**■社会を支えるための通信インフラの強化**

NTTグループは、コロナ禍に伴う通信需要の増加に対応するため、通信インフラの強化を進めた。リモートワー

**図表4-3-1 ▶学習プラットフォーム「まなびポケット」**

出所： NTTコミュニケーションズ「【新型コロナウイルス休校支援】【申込受付終了】まなびポケット提携コンテンツの無償提供(無償期間延長決定6月末まで)」まなびポケットサービスサイト（2020年2月28日）

**図表4-3-2 ▶モバイル空間統計のイメージ**




出所：NTTドコモ「（お知らせ）『モバイル空間統計 人口マップ』を提供開始」（2020年5月27日）